

カラマツコンテナ大苗の試験地を作ろう

三陸中部森林管理署では、二ホンジカによる苗木の食害が多く、苗木が若いうちに食害を受けると枯死したり、成長が悪くなるので、その対策として大苗を植えることによりシカ食害を抑えることができるのではないかとということで、10月18日に釜石市橋野第二国有林393林班ほ小班に、東北森林管理局、三陸北部森林管理署、三陸中部森林管理署の職員総勢20名でカラマツコンテナ大苗試験地を設定しました。

試験は、普段使用しているカラマツコンテナ苗（培地150cc苗長35cm以上）とカラマツコンテナ大苗2種類（培地300cc苗長90cm・120cm）の3種類の苗木を各50本植付し、春と秋の年2回苗木の成長量調査とシカの食害調査を行うものです。

具体的には、普段植栽しているカラマツコンテナ苗とカラマツコンテナ大苗の成長量の比較、苗木のサイズ毎のシカ食害の傾向、下刈回数を削減し低コストで造林することができるか、などの検証を複数年にわたり行う予定です。



左から 35 cm上・90 cm・120 cmの苗木

試験地を作ってみて、大苗の植付が大変だったと感じました。

今回使用した大苗の培地（苗木の土の部分）が通常のコンテナ苗の培地よりも大きいので、ディブルで穴を空けて苗木を入れてもなかなか培地全てが収まらず、ディブルを刺して穴を広げてを繰り返し、皆さんも苦戦している様子でした。



ディブルで穴を空ける作業



タグ付けの様子



苗木の調査



カラマツコンテナ大苗（120 cm）植栽後の状況

三陸中部森林管理署
神 龍佑